

令和2年度

30th

# 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト

## 入賞作品

- 主催 伊豆沼・内沼の自然フォトコンテスト実行委員会  
(栗原市、登米市、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団)
- 後援 宮城県、(一社)栗原市観光物産協会、(一社)登米市観光物産協会、  
宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会、  
河北新報社、読売新聞東北総局、朝日新聞仙台総局、  
毎日新聞仙台支局
- 協賛 宮城県写真商業組合

# 入 賞 者

各 賞	題	氏 名	住 所
<b>最優秀賞</b> (宮城県知事賞)	旭日に響く羽音	青 田 真	宮城郡利府町
<b>優秀賞</b> (宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団理事長賞)	朝のミーティング	遠 藤 芳 雄	仙台市宮城野区
<b>金 賞</b> (栗原市長賞)	静かな夕食	三 塚 東	栗原市鶯沢
<b>金 賞</b> (登米市長賞)	光の楽園	佐々木 甚 彦	宮城郡利府町
<b>銀 賞</b> (栗原市観光物産協会会長賞)	晩秋の大空へ	佐々木 幹 男	登米市迫町
<b>銀 賞</b> (登米市観光物産協会会長賞)	背後の羽音	松 尾 憲 司	愛知県田原市
<b>銀 賞</b> (宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)	伊豆沼目覚める刻	佐 藤 浩 章	福島県南相馬市
<b>銅 賞</b> (河北新報社賞)	気嵐の朝	中 野 好太郎	仙台市宮城野区
<b>銅 賞</b> (読売新聞東北総局長賞)	月と真雁	吉 田 巧	東京都昭島市
<b>銅 賞</b> (朝日新聞仙台総局長賞)	寒い朝	阿 部 健 司	石巻市あゆみ野
<b>銅 賞</b> (毎日新聞仙台支局長賞)	可愛いこぜりあい	鈴 木 由 香	福島県南相馬市
<b>入 選</b>	ワンちゃんが店番!?	加 藤 崇 徳	登米市迫町
<b>入 選</b>	夢幻のきらめき	三 浦 明 彦	登米市中田町
<b>入 選</b>	あけ方	川 村 澄 志	仙台市青葉区
<b>入 選</b>	絆(きずな)	大 金 由 夫	大崎市古川
<b>入 選</b>	湖上の妖精	今 野 千賀子	大崎市古川
<b>入 選</b>	ワンシーン	相 沢 開	石巻市万石町
<b>入 選</b>	それぞれの休息	小野寺 浩 一	岩手県一関市
<b>入 選</b>	光の道	伊 藤 邦 彦	登米市迫町
<b>入 選</b>	風を待つ(なぎをまつ)	永 野 友 香	登米市迫町

## 総 評

今年のコンテストは、第30回と記念の回で応募作品の撮影期限をなしにしての募集でした。新型コロナウイルスの影響も合わさり2020年に撮影した作品は少ないと予想しましたが、その予想に反して2020年中に撮影された作品が圧倒的に多かったです。特に11月15日の朝はとても良い条件だったようで、一斉に飛び立つマガンが多く応募されていました。似たような場面での作品は、その中から絞っていくので惜しくも入選できなかった傑作もありました。

「自然」の作品で素晴らしい場面を捉えて、なるべくそのまま作品にされているものと、画像処理で少し手を加えすぎてしまったものでは、前者の作品により魅力を感じます。「違和感なく、さりげない調整をする」ということを心がけていただけると良いと思います。

新型コロナウイルスや鳥インフルエンザなど見えない敵に最大限の注意をしながら、伊豆沼・内沼の美しい自然の撮影をしてください。

### フォトコンテスト審査員 井村 淳 (いむら じゅん)



1971年生まれ。横浜市在住。  
日本写真芸術専門学校卒業。  
竹内敏信氏の助手を経てフリーになる。  
サバンナの動物を中心に世界の野生動物や日本の自然など「野生」を求めて活動。  
(社)日本写真家協会会員。チーター保護基金  
ジャパン名誉会員。キヤノンEOS学園講師など。  
著書『大地の鼓動』『あざらしたまご』他。

ホームページ  
(J's WORLD Nature Photographer  
Jun Imura's website)



【評】朝日とともに一斉に飛び立つマガンの飛翔風景は伊豆沼・内沼の代表的な光景と言えるでしょう。その分この場面の作品の競争率も高くなりそれを勝ち抜いた作品です。天候と飛び立つタイミングにボリュームと三拍子が揃うのはシーズンのうちに数回程度しかないチャンスです。マガンの散らばり方がよく、ブレないシャッター速度と前景のカヤからピントが合う被写界深度の設定に太陽の輪郭を見せる露出設定のどれも適確です。また、撮影後に余計な調整が無い自然な仕上がりなのも好印象です。

金賞（登米市長賞）「光の楽園」

佐々木 甚彦



【評】夕方の太陽が水面に映り、光の道になったところでしょう。その道の上に何羽ものハクチョウが入るようなカメラポジションの取り方が良いです。そして、手前の白鳥が翼を広げた瞬間で画面に動きを感じます。さらに奥の二羽も羽ばたき助走し始めたのでしょう。この道の上で二つの動きを捉えているのがNICEシャッターチャンスです。また、被写界深度が深いのもよかったです。



【評】 日の出の直後の黄金色の光と日陰の暗部の黒とのコントラストがとても綺麗です。やや暗めに露出設定をし、陰影を強調させることで、暗い背景に白い息が逆光で浮かび上がりました。本来は二番(つがい)のハクチョウが縄張りを主張して鳴きあっているのだと思いますが、これをミーティングと題したのも面白いです。広めの空間に少し左に寄せ、沼の片隅でミーティングしている感じに見えます。息が出て、翼の形の良いタイミングです。



金賞 (栗原市長賞)

「静かな夕食」

三塚 東

【評】 アオサギが小魚を捕食した瞬間を見事に捉えています。水面が鏡状に映り込んでいることから、アオサギがその瞬間までじっと動かずにいたことがわかります。最小限の動きで捕まえると思いますが、そのスピードはとても速いものです。それをブラさずに捉えられているので緊張感が伝わります。背景の水面に映り込んでいる夕方の空の色がきれいです。

## 銀賞

(栗原市観光物産協会会長賞)  
「晩秋の大空へ」

佐々木幹男

【評】 天気が良く冷え込んだ朝に見られる気嵐が背景を隠してくれ、そのモヤに逆光で朝日が当たり幻想的な光景です。マガンの飛び方もかなりのボリュームですね。手前から奥まで、画面全体をマガンが埋め尽くしているのが良いです。空を広めにし、水面を少し入れ、太陽をあえて画面の右寄りに配置した構図がオシャレで良いです。



## 銀賞

(登米市観光物産協会会長賞)  
「背後の羽音」

松尾 憲司

【評】 オオハクチョウが翼を一杯広げてブレーキをかけながら着水する瞬間ですね。足が水面に着いたしびきも止まる高速シャッターが良いです。また、こちらに減速しながら向かってくるハクチョウの顔にピントがかっちり決まっているのが素晴らしいです。手前のオナガガモがいなければ映り込みももっと見えて完璧でしたね。

## 銀賞

(宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリ友の会会長賞)  
「伊豆沼目覚める刻」

佐藤 浩章

【評】 マガンの一斉の飛び立ちは、空一面を埋め尽くす圧巻の光景だと思います。多くの人は、広めに切り取りたくなり、そのような作品が多い中、太陽を大きめに切り取り、マガンの密度も圧縮効果により強調させたこの作品は目を引きました。太陽の上の空間までマガンが入られていたら更に上位に入れたかもしれません。



銅賞 (河北新報社賞)  
「気嵐の朝」

中野好太郎



【評】 彩度が低く一見モノクロに見えますが、うっすらと彩がありますね。モノクロにすると、色情報がなくなり物の形やディテールなどが浮かび上がってきます。この場面は、マガンが程よく飛び交っているシルエットと、気嵐が漂っている空気感が見事に表現されています。

銅賞 (読売新聞東北総局長賞)  
「月と真雁」

吉田 巧



【評】 満月に近い月の前を横切るマガンの編隊がうまく捉えられています。月と重ねるのに根気よくその瞬間を待ったのですね。月にピントを合わせてしまうとマガンのシルエットはボケますが、しっかりマガンにピントが合っています。空間が広いので一回りトリミングすると更に良いです。

銅賞 (朝日新聞仙台総局長賞)  
「寒い朝」

阿部 健司



【評】 派手なマガンの飛び立ちの作品を見ている中で静かさを捉えたこの作品に安らぎを感じます。マガンの編隊が水面に映ったシンメトリーの瞬間が面白いです。また、二艘の舟が仲よさそうにくっついているように見えます。バランスのとれたとても計算された画面構成だと思います。

銅賞 (毎日新聞仙台支局長賞)  
「可愛いこぜりあい」

鈴木 由香



【評】 二羽のメスのオナガガモが胸を突き出し合って、小競り合っている感が伝わってきます。二羽の表情もしっかりと捉えられていて会話が聞こえてきそうです。それにしても何があったのでしょうかね。この二羽には申し訳ないですがまさしく、可愛い小競り合いですね。

入選 「ワンちゃんが店番!？」

加藤 崇徳



【評】 かわいいワンちゃんが店番をしているような微笑ましい場面です。ワンちゃんの顔が少し隠れてしまったのが惜しいです。その時の流行りのキャラクターや物の値段が分かり、その時代を記録しているということでも興味深いです。

入選 「夢幻のきらめき」

三浦 明彦



【評】 水面から湯気のように沸き上がる気嵐に朝日が逆光で差し込んで、黄金色に染まった光景が美しいです。枯れたハスの茎のくねくねした線が面白い模様になっています。その中で主役となる羽ばたきを捉えたのが良かったです。

入選「あけ方」

川村 澄志



【評】 風が全くなく、沼の水面が鏡状に静まり返っているところに映り込むハスの茎の造形と、トワイライトに染まった空の色が綺麗です。なので、実際の空を見せずに映り込みだけで構図をまとめたら一層面白くなったのかもしれない。

入選「湖上の妖精」

今野千賀子



【評】 二羽のハクチョウがタイミングを合わせたかのように対照的に羽ばたきをしたところをうまく捉えています。水面が程よく揺れていて縞模様になっているのも面白いです。また、他に邪魔なものもなく二羽だけなのが良いです。

入選「それぞれの休憩」

小野寺浩一



【評】 何かの漁具でしょうか、沼から突き出している竹の先端に留まるアジサシの表情まで見えて面白いです。一羽が翼を広げて動きのある良い瞬間です。背景は大きくぼかした浅い被写界深度で三羽にピントが合っているのも良いです。

入選「光の道」

伊藤 邦彦



【評】 赤く焼けた空が水面に映り込んで、赤い道になったところを広めに切り取ったのが面白いです。その先にハクチョウのグループがいるのが良いシャッターチャンスだと思います。また、暗めの露出設定が良い雰囲気です。

入選「絆（きずな）」

大金 由夫



【評】 群れで飛ぶハクチョウをスローシャッターで翼をブラした流し撮りが動感を捉えています。日が当たるハクチョウを暗い背景に重ねて狙っているのがインパクトが出ました。皆の羽の動きがシンクロしているのも良いです。

入選「ワンシーン」

相沢 開



【評】 朝の斉の飛び立ち、全体が曇ってしまうと少し残念ですが、東の空に隙間があり雲が広がっていると奥行きのあるドラマチックな光景になることもあるのですね。そのタイミングでこのように飛んでくれた時は興奮してしまうでしょう。

入選「凧を待つ(なぎをまつ)」

永野 友香



【評】 ハクチョウの顔をアップに捉えたインパクトのある作品です。速いシャッター速度で雪を止め、降雪の雰囲気もしっかりと捉えています。青味を生かし、冷たい気温の空気感を見せられています。もう少しシャープだとなお良いです。